

093B 最新型核動力潜水艦の出現

漢和防務評論 20180406(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

今年1月、中国海軍最新型潜水艦093B型が浮上し国旗を掲げた事件について、漢和が論評しています。

結論は、不可解として中国海軍を一方向的に貶めることは避けています。

実態は、追跡され浮上したように見えますが、漢和によると、中国海軍潜水艦は、緊急状態でなければ艦長は浮上を命じる権限がない、としています。すなわち中央軍事委員会聯合作戦指揮センターの承認を得なければ浮上はできない、ということです。

漢和の見解なので事実とは断定できませんが、様々な状況が考えられ、いずれの状況にも対応できる態勢を我が国は準備しておく必要があります。

平可夫

2018年1月、本誌は1枚の写真を見て驚愕した。海上自衛隊によって撮影された093B核動力攻撃潜水艦(SSN)の写真であり、同潜水艦は、日中間で争いのある海域の近くで、中国国旗を掲げ水上を航行していた。

これは093Bが初めて外国に探知された事件である。同潜水艦は、船体が高く大きく、電子偵察アンテナ及び相当長い棒状の通信アンテナを展開していた。これは、093Bの一切の活動が、最高上層部の厳格な指揮の下で行われ、”現場指揮官の独断”(日本のメディア或いは一部の中国問題専門家は、艦長の独断と分析判断しているが、これは考えられない。)で行われたものでないことを意味している。これについて以下分析する。

船体後部、亀の甲羅がはっきり見える。これが093Bであると判断できる重要な印である。中国の核動力攻撃潜水艦(SSN)の識別は容易である。全部で091と093の2種類しかなく、後者には、基本型、093A、093Bがある。B型は3乃至5艘建造された可能性がある。A型は過渡的な型らしい。YJ-18多用途ミサイルの開発時期によって、A型B型に重要な違いがでた。A型は魚雷発射管からYJ-18を発射する可能性が極めて高く、B型は8乃至12個の垂直発射機からYJ-18を発射する。これはKDRの判断である。中国の設計師は、YJ-18の射程はロシアのCLUBシリーズミサイルよりも短い、米国のトマホークミサイルよりも100KM長い、と称している。そうならば、なぜ亀の甲羅方式にしたのか？これは、093Bの水中騒音が依然として米国の類似のSSNよりも大きいことを意味する。

すでに流出した写真を見ると、093Bは、ソ連のOSCAのような巡航ミサイル専用の潜水艦ではなく、多機能型であり、依然として対潜、対艦を主とし、対地攻撃が必要な場合は対陸攻撃巡航ミサイルを携行する。その理由は、彼らが

国産したものであり、所要の作戦ソフトのみを求めた結果である。次世代の 095 型になると、対地攻撃専門の巡航ミサイル潜水艦に改修され、台湾東岸の軍事目標攻撃に使用される可能性が極めて高い。

YJ-18 は開発当初から多用途化を目的にしており、対艦、対地型があり、識別装置が異なるだけである。中国は、主要な対艦ミサイルを対地型に設計し一部は輸出もしている。例えば C-602 等である。

高く大きな船体、潜望鏡は水中での航行の安定性を低下させる可能性があり、中国製潜水艦の一貫した欠点となっている。当然水上での通信と電子偵察には有利でありアンテナをさらに高くしている。

しかしすでに流出した写真を見ると、船体の外殻と耐压殻の結合部は流線型になっている。これは 093B と A 及び基本型との相違点である。このように水中抵抗を減らしている。093B の水中排水量は 6000 トンを超える可能性がある。注意すべきことは、尾舵に曳航ソナーを取り付けていることである。これは不思議ではない。KDR はすでに 094 型 SSBN (戦略ミサイル核潜水艦) に曳航ソナーを取り付けているのを発見している。093B にはサイドスキャンソナーがあり、輸出用の通常型潜水艦にもこの装備がある。ユーザーの要求によって決まる。

このような状況下で、093B が日中間に争いのある海域に進入したことは、政治的にも軍事的にも全く不可解である。この海域の水深は、200M 以下であり、核潜水艦の潜航には利点がない。しかも国旗を掲げて水上を航行している。明らかに日本に対する威嚇のようだ。この種の状況は、093B が追跡されたことを意味する可能性がある。しかし中国海軍潜水艦の作戦条例は厳格な条例である。いつ浮上するか？いつ国旗を掲げるか？作戦条例に厳格な規定がある。

国旗を掲げて、航行することは威嚇を意味する。

核潜水艦は充電が必要ない。当然、できるだけ水中航行する。速やかな通信連絡が必要になり、或いは電子偵察が必要になった場合に限り、水上航行ができる。各国とも同じである。

YJ-18 は水中からミサイルの熱発射ができる。これは、設計師が中国のメディアで公表した。KDR はこれが何を意味するかわからない。水中で如何に点火するのであろうか？これが亀の甲羅を設計した目的か？すなわち発射筒が非常に長く、筒内で点火するのか？発射筒を打ち出したあと、ミサイルは再び水面上で発射筒から分離するのか？映像で確認したいが、現在そのような写真は見たことがない。

また別の可能性は次のとおりである。中国が指摘したが、当時この海域には日本の水上艦がいた。日本のメディアは、潜水艦に話を持っていった。日本はその前に米国から通報を得ていた。これは、093B が水面下ですでに発見されていたのかどうか？日本及び米国海軍潜水艦の監視を受けて、浮上せざるを得なかったのか？これは当時、091 型 SSN と米国海軍空母が水面下で発生させた秘密戦に似ている。なんと 3 日間に渡っていた。ある内部消息筋によると：米軍は当時中国潜水艦を威嚇していた：もし浮上しないならば、撃沈する、と。したがって 091 は浮上し、北海艦隊は、このために 6 機の J-6 戦闘機を派遣した。もう一つ可能性は極めて低いが、考慮する必要がある。093B に機械的故障が発

生し、浮上しなければならなくなった、と。冷戦時代、多くのソ連潜水艦が類似の問題を起こしている。093Bは装備の換装を終えたばかりであり、しかも新型潜水艦なので、この可能性を完全に否定することはできない。2003年にも091型潜水艦の日本領海侵入事件が発生した。中国側は、機械の故障、と説明した。KDRとしては、中国側が故意に起こしたはずがない、と考えている。その必要がないからだ。可能性として、航法システムの問題、海図の問題が考えられる。当時中国海軍は、子供が初めて外出したような状態で、対外情報に疎かった。093Bの写真を見ると、一切正常に見える。重大な内部火災や燃焼現象は見えない。

潜水艦の活動は、各国軍事当局は重要機密にしている。事件発生後、日本防衛省は相当あいまいな写真を公表しただけである。2日後、NHKはより解析度の高い同じ写真を獲得した。これは、防衛省が最初から事態の敏感性、潜水艦の型式を知り、故意に低姿勢で臨んだことを意味する。そうでなければなぜ曖昧な写真を出すのか？日本は、率先して中国大使を召き交渉を行った。

外交領域では、この動きは奇怪である。KDRは次のように理解している：昨年、中国外交部は、2018年は日中関係を徹底改善し、最大限度台湾独立勢力を孤立化させるとの外交戦略を打ち出した。しかも日中友好40周年である。東シナ海で如何なる摩擦も起こさせないはずである。

なぜこうなったか？昨年12月、H-6戦略爆撃機がSU-30MKKの護衛の下、2発のKD-20巡航ミサイルを搭載し日本海に入った。日本を刺激する理由は何か？

その可能性として考えられる理由は以下のとおりである：軍内部の最上層部において、相当大規模な粛清が進行中である。今後また多くの高級軍人が逮捕される。話によると、まさにリタイヤ直前の高級軍人も或いはリタイヤした高級軍人も対象になるという。軍内部から視線を逸らすためには、対外的な揉め事が必要になる。

中国の対外軍事行動、外交政策を見る場合、内部的要因を第一の要素として考慮する必要がある。北朝鮮も同じである。歴史を見れば分かる。

上述のとおり、日本のメディアは、類似の事件が発生すると、現場指揮官の”臨機の独断”であると判断しがちである。日本、米国、ロシアの潜水艦、核潜水艦の指揮官がこのような権限を持っているだろうか？日本のメディアは、軍隊を知らないのである。

海軍の活動、特に潜水艦、核潜水艦の活動は、政治、外交と高度なレベルでかわりがあり、潜水艦は安易に行動できるものではない。KDRが何度も説明したように、中国及びソ連の軍の指揮の構造は似ている。ソ連軍は、条例で動く軍隊である。中国軍は1950年代に、”ソ連軍に学べ”とのスローガンが提起され、最初の条例は、ソ連軍条例の翻訳版であった。

第一、近年来、中国軍の内部文献によると、台湾、日本、インドに関する如何なる非軍事行動も、威嚇及び演習を含め、全て”厳粛かつ重大な政治任務”であるとしている。相当慎重に対応している。”各級党委員会は軍事委員会の統一部署、指揮の下に、真剣に貫徹、執行しなければならない”と。

中国軍は、3つの階層で指揮している。それは、上から中央軍事委員会聯合指揮

センター、戦略方向聯合指揮センター（東海聯合作戦指揮センター）、及び戦区聯合指揮センターである。中間の聯合指揮センターが無ければ、当然 2 つの階層の指揮体制となる。潜水艦艦長は、単に戦術レベルの指揮権があるだけである。

一つの指揮体制は、作戦計画、部署、指揮の一切を軍事委員会聯合指揮センターが責務を負う。

もうひとつの指揮体制は、委託指揮方式であり、軍事委員会聯合指揮センターが戦略方向聯合指揮センター及び戦区聯合指揮センターに指揮を委託する。

衛星写真から見ると、第一核潜水艦支隊はすでに 093B を装備している。したがって今回の 093B は、北海艦隊の可能性もある。

事実上、核潜水艦支隊の実際の指揮権は海軍司令部にあり、艦隊司令部にはない。

今回の 093B の一切の活動は、重要な”政治任務”を目的として、計画及び作戦実施を含め、軍事委員会聯合指揮センターが指揮したものである、と KDR は考えている。

まさに上述のごとく、中国軍は、現在習近平の時代に入っており、その上大規模な人事の粛清が行われている。この種の事情の下、習近平の直接指示がなければ、誰であろうとこの種の計画を立てたり、行動に移すことはできない。

中印国境に戦略道路を建設したり、空母に台湾本島を一周させる等の重大な威嚇行動は、習近平本人の同意がなければ、誰も責任を取れないのではないだろうか？KDR はこのように考えている。

第二、中国軍には 2 つの指揮系統がある。一切の作戦上の決定は、政治委員と主官で構成される党委員会が行う。しかしソ連軍は、単一首長制度であり、主官が一切を決定し、政治委員は政治工作だけを行った。このような状況下では、たとえ潜水艦内部であっても、艦長が一人で決定することはできない。党委員会の決定であれば慎重に行われたはずである。

通信が完全に途絶し、上級指揮官の意図が不明となり、或いは重大な技術的故障が発生した場合、現場指揮官は臨機の処置を行う権限がある。例えば、浮上の必要の有無？等々である。一切が条例に基づいて行われており、条例は軍の法律である。どの国の軍隊も同様である。旗を掲げることは重大な行動である。外交問題に発展することを意味する。条例で決められており或いは最上層部が決定する。艦長本人も或いは党委員会も権限がない。

外交問題に発展すると、軍隊だけの問題ではなくなる。外交部との調整が必要になる。これは最近成立した”国家安全委員会”での協議事項となろう。しかし依然として多くの不明瞭な点がある。政治局常務委員会は、実際上、外交問題に対する影響力は弱い。ソ連時代、これは、国防委員会が担当しており、外交部長、KGB 主席が構成員であった。

総括すると、093B を日中の係争海域に進入させたのは、奇怪な行動である、と考える。これは習近平の個人の性格を反映したにすぎないのであろう。

以上